

東海大学福岡短期大学教育研究年報

2008 年度版 発刊にあたって

本学は、1990 年に、福岡県宗像市に東海大学工学部福岡教養部の後を受けて開学して以来、19 年目を迎えるに至っています。宗像市をはじめとする地域から懇請のあった「情報化・国際化時代に対応できる人材の育成」を設立の目的とし、現在まで 4000 人に近い卒業生を輩出してきましたが、時代の趨勢は、短期大学に対して極めて厳しい現状を突き付けています。今後、日本が目指す知識基盤社会形成への一翼を担うためには、教育の質を担保しつつ、新たな時代のニーズに的確に対応し、地域に必要とされる人材の育成が必要となっています。

本学は、2002 年度以来、改革の大きな柱に「学びの自由化と個別教育の推進」を掲げ、外部から強いられる「勉強」ではなく、自発的に「なりたい自分」になるための「学び」をサポートするために、学びたい人は、「誰でも」、「何時でも」、「何処でも」学ぶことができる教育システムの実現を目指してきました。その成果として、2005 年度に、本学の ICT を活用した「学びの自由化と個別教育の推進」を図るプログラムが、文部科学省「現代 GP」に採択され、e-Learning 教材の開発、通称「学生カルテ」と呼ばれる「SRMS(Student Relationship Management System)」の構築、「リアルタイム授業評価」の導入等、新たな教育支援策を次々に拡充してきました。

また、2007 年 6 月に 6 名の学生を中心に、「地域を教育の場に」という理念のもと、教室での講義だけではなく、地域の自治会、自治体、企業などと連携して、学生を育てることを目的に設立した仮想会社「T time」の活動は、①藍の島活性化、②小倉・若松区ツアー、③小倉名物の開発等の企画を通して、本学の教育プログラムの柱へと成長し、大きな教育効果をもたらすようになりました。今年度、これらの活動が、文部科学省から、PBL (Project Based Learning) の理念を具現化した、実践的かつ体験的な教育を推進する「地域活性型人材育成プログラム」として、「教育 GP」に採択されました。本学は、この「個別教育」、「ICT 技術の活用」、「地域を教育の場とした実践教育」という本学独自の特色を軸に、一層の改革を進め、地域に根差した魅力的な短大へとさらに変貌していかなければならないと考え、改革の流れをさらに加速しようと考えています。

地域教育活動としては、「学校法人東海大学エクステンションセンター福岡講座」と呼ばれる教養公開講座を開催、宗像市に所在する福岡教育大学、日本赤十字九州国際看護大学と、市の呼びかけのもとに連携して、大学がもつ資源と情報を広く地域社会へ開放するために「むなかた協働大学」を創設、また、民間企業（イオン等）との提携による出張講座の開設等を行っているだけでなく、連携事業は、近隣の県立高校との高大連携授業へと展開しています。

本学は、さらに、グローバル化に対応する学生の育成を目指して、東海インターナショナルカレッジ (HTIC) のあるハワイへの留学だけでなく、韓国や中国への海外短期留学や交換留学制度も導入し、学びの多様化に向けて様々な試みを行っていますが、今後も新たな企画を加え、より一層魅力ある教育プログラムの開発に向けて邁進する所存です。ぜひ、本冊子に対する、ご意見、ご批判を賜れば幸いです。

2010 年 3 月

東海大学福岡短期大学
学長 高橋 守人